

2013年9月より Massachusetts Institute of Technology の Department of Nuclear Science and Engineering の博士課程に所属しています曾根 彬です。現在は Paola Cappellaro 教授の指導の下で固体スピン系の量子制御理論の研究に携わっております。今回は、今年の活動について少しお話ししたいと思います。

今年は結婚式もあって色々大変な一年間でしたが、一番大変だったのは次のポジション（ポストドクター）の為の就活活動でした。私は来年の5月に博士課程を取得する予定でありまして、将来的には学术界で活躍するために、博士号取得後多くの場合教授職に就く前に修行としてポストドクターとして二、三年間研究に従事します。そこで学生の研究指導や研究資金の申請など、助教授になってから必要とされる能力を育成します。理論物理学の場合は、教授の研究室に入るといよりは、free agent みたいな感じで、大学の fellowship に申請して、様々な教授と共同研究するという形をとります。MIT は學術のネットワークを広げるために、学生を外にどんどん出していくというスタイルを取っています。なので、私も University of Maryland at College Park、Princeton University や Harvard University といった世界で最先端の量子情報理論の研究で有名な大学の postdoctoral fellowship を申請しました。今は結果待ちです。

さて、fellowship application form を書くにあたって自分の博士課程で行なった研究に関して約三割の分量、約七割はそのポストドクターの研究プランについて書かなければなりません。基本的には2~3ページのドキュメントで、研究プランに関しては、自分のアイデアを提案し、どの教授と興味が合うかを指摘する必要があります。そのためには教授と連絡をとらないといけないのですが、私のアドバイスでは6月に自分の興味を持った研究を行っている教授にメールを送った方が良いでしょう。大体の教授は忙しくて、なかなか返信しないのですが、約一ヶ月後の7月にもう一度メールを送ります。そうすれば、ほとんどの教授は返信します。メールはできる限り短く、自分がどんな研究に興味を持っているのか、そして簡単に自分が何を博士課程の時に研究したかを書き、CVを添付してメールを送ります。興味を持った教授とは Skype を通じてより詳しくディスカッションをし、その後に学生が指導教員に推薦状をその教授に送らせます。興味持たれたら、教授に招かれてその教授のグループで自分の博士課程の時に研究に関するプレゼンテーションを約一時間して、グループのメンバー一人一人とディスカッションをしていきます。実はこれは極めて重要で、fellowship によってはその大学の教授の nomination letter が必要な所もあるので、教授を訪問することは極めて重要です。私は、University of Maryland, Princeton University と UC Berkeley に訪問しました。

推薦状ですが、大体の3通必要で、有名な先生に書かせることも良いですが、「自分のために推薦状を書きたい先生」に書かせた方が良いでしょう。これは MIT の先生からのアドバイスです。自分のことをよく知っていて自分のために書きたい先生の推薦状は感情が入っていて、全然違うといいます。なので、たとえその先生が助教授でまだ名を知られていなくても、自分のことをよく知っている先生ならば素晴らしい推薦状を書いてくれるので、難しいこと考えずに頼んだほうが良いでしょう。

後もうちょっとで卒業ですが、良いポストドクターポジションをしっかりと見つけて、将来は財団の期待に応えられるよう学术界で活躍しようと思います。また、これらの体験が後輩の皆さんのためになればと思います。